2012 年 6 月 15 日

近畿雑草研究会ニュースレター No.21

近畿雑草研究会

平成 24 年を迎えて

平成 23 年度代表　須藤健一

先のニュースレターは、東日本大震災から一月あまりの時でした。それから１年、震災の爪痕は大きく、復興にはまだまだ時間がかかりそうです。この間、東北の方々とお話しする機会もあり、ご自身の、ご家族の、地域のお話などお聞きすることができました。本年度の雑草学会でもミニシンポジウム「東日本大震災による被災農地の復興に向けての植生管理上の課題と対策」が行われ、学会としての、学会員としての一年間の取り組みや今後の課題などが報告され、議論されたところです。その中で、津波被災農地での植生、そこで発生している雑草の実態、特定外来生物や要注意外来生物の農地への侵入など、3.11 の津波は、今までに経験したことのない変化を農地に与えていることなどが論議されました。

思えば、日本は東アジアの東端に位置し、西に日本海を経て東アジアに隣接はするものの、東には大きな太平洋を望みます。太平洋を望むがゆえに、内田樹氏は「日本辺境論」（新潮新書）の中で、日本人は、日本が東アジアの東端の「辺境」に位置することからくる「辺境の民」であり、そのことが日本人のものの考え方や行動の習慣を特徴づけているのだと言います。今回の 3.11 の津波で、1 年を経て太平洋の東海岸まで流れ着いたものもありました。陸域を覆う植物についても、同じようなことが起こっているのかもしれませんが、わが国が東アジアの「辺境」であることから、アジア大陸を原産とする植物は、西へ西へと生息域を拡大してきたものの太平洋に阻まれ、わが国に落ち着いてしまったのではないだろうか、ちょうど温帯域に位置するわが国は、北からの拡大種と南からの拡大種もせめぎ合い、東へと拡大することができず、北方系の種と南方系の種とが入り混じる結果にもなってしまったのではないだろうか、3.11 後、そんなことを考えていました。

平成 24 年度を迎えて、役員一同 2 年目に入りました。本年度、夏には近畿中国四国地域農業試験研究問題別研究会が雑草学会中国四国支部との共催で、7 月 24 日午後にメルパルク岡山で行われます。近畿からもふるってご参加ください。23 日には日本植物調節剤研究協会近畿中国四国支部の現地検討会も行われ、アメリカコナギやウキアゼナの観察ができます。詳細が分かり次第お知らせいたします。秋には研究会を予定しています。昨年度は「タンポポ調査」や「帰化植物」についての話題をいただきました。本年度の研究会について、ご要望をお待ちしております。

１．活動報告

（１）現地見学会

2011 年 8 月 2 日，兵庫県立農林水産技術総合センター内圃場および加西市倉谷町の現地圃場（除草剤抵抗性雑草発生水田）において，現地見学会を行いました。参加者からお寄せいただいた報告で，概要説明に代えさせていただきます。

現地見学会参加報告

京都大学大学院（修士１回）　大門奈那子

2011 年 8 月 2 日、近畿雑草研究会の夏期現地見学会が、兵庫県加西市倉谷町の水田圃場および兵庫県立農林水産技術総合センター内の圃場で行われた。

午前中に訪れた水田では、除草剤抵抗性のオモダカ・イヌホタルイが発生している様子を見学した。両種は水稲の株間や畦を埋め尽くすほど旺盛に生育していた。実際の発生状況を前に、現在問題になっている抵抗性雑草について、参加者から多くの質問が出ていた。

昼食後はセンター内の圃場を見学した。水田では直播および移植のそれぞれについて作期の異なる栽培が行われており、発生する雑草種や程度の違いを観察した。また、除草剤を使わない雑草管理技術開発に向けた研究として、チェーンを利用した機械除草の様子を見学した。丹波黒大豆の圃場では、除草管理とともに，大きな減収要因となっている夏期の水ストレスをコントロールするアイデアについての説明を受けた。厳しい暑さの中での見学となったが、新しい技術をまえに参加者は熱心に見学していた。

野外では一歩進むごとに話題が見つかるため、なかなか行程は前に進まない代わりに，あちらこちらで活発な議論が進んでいた。同じ圃場を見学していても、参加者それぞれ興味をもつ対象や立ち止まる場所が違うのが印象的だった。一枚の水田についてであっても作物、雑草防除、生態学的な観点など多方面からの意見が出て、自分だけでは気づかない新しい発見があった。これも多様な参加者がいて、異なる背景を持っているからこそだろう。圃場や公的な研究機関という普段見学する機会の少ない場所を訪れることができ、経験と知識の両方を得られる貴重な見学会だった。

加西市の現地圃場にて。朝のうちは気持ちよかったのですが・・・

兵庫県立農林水産技術総合センター内圃場で，炎天もいとわず，説明に聞き入る参加者

（2）総会およびシンポジウム

2011 年 11 月 26 日（土），京都大学農学研究科において，近畿雑草研究会総会を開催しました。これにひきつづき，「帰化植物をめぐる最近の話題」と題して、シンポジウムを開催しました。以下の４名の皆様にご講演をいただきました（敬称略）。

下野嘉子「輸入穀物夾雑物から見える海外の雑草フロラ」
植村修二「最近気になる帰化植物」
水田光雄「皇居のツツイトモは絶滅危惧種？」
木村　進「近畿から中四国まで広がったタンポポ調査」

参加者からお寄せいただいた報告で，概要説明に代えさせていただきます。

シンポジウム参加報告

神戸大学農学部（4 回生）　河原蕗子

今回の雑草研究会では、帰化植物について様々なお話を聞くことができました。長年植物の研究・観察を続けてきた方の知識のすごさを実感しました。とくに印象に残っているのは外来と在来タンポポの調査に関する話です。タンポポの見分け方からデータの収集法およびまとめ方まで、わかりやすく説明していただき、大変勉強になりました。本当に＜カンサイタンポポ＞は＜カンサイ＞の＜タンポポ＞なのですね。今後もこの研究会に参加し、雑草に関する話を聞きたいと思います。

シンポジウム参加報告

大阪府立大学大学院（修士１回）佐野沙樹

今回のシンポジウムでは，「帰化植物をめぐる最近の話題」というテーマで，4 名の演者による講演があった。

下野氏は，日本に輸入される穀物に混入する雑草種子について，実際に混入している種子と，混入しやすい種子の特徴を話された。畑に生育する雑草と混入している雑草種子で，種類や割合が異なっている点が興味深かった。

植村氏は，ご自身が気になっているという帰化植物を例に，最近の帰化植物に共通している特徴と，人間の予測できない行動によって園芸植物が逃げ出していることを熱く語られた。次々にスライドに映し出された多数の植物の写真からも，氏はどれほど帰化植物を大好きなのかが伝わってくる気がした。

水田氏は，この夏に皇居で大繁殖して話題になった絶滅危惧種のツツイトモについてお話になり，レッドデータブックには種の由来の情報を記載すべきと意見された。話を聴いて，絶滅危惧種といっても生育地によって扱いが大きく異なることが，保全活動を難しくする一因だと考えた。

木村氏は西日本 19 府県にわたるタンポポの分布調査について説明された。専門家から市民までが参加したこの調査で，集められたタンポポの標本は 7 万点以上だそうだ。自分が研究に用いているサンプル数とは桁が 2 つ 3 つ違っていて，タンポポ調査の大変さは今でも想像がつかない。

以上のように「帰化植物」をテーマにした今回のシンポジウムであったが，内容は多岐にわたり，聴いていてたいへん楽しいものであった。しかし，参加した学生が少なかったのは，もったいなかった。自分は，それぞれの講演から良い刺激を受け，研究のモチベーションを上げることができた。学生のみなさんには，自分や先輩，後輩が発表をしないシンポジウムにも積極的に参加することを，ぜひおすすめしたい。

２．会計報告等

会計監査　中山祐一郎 ㊞

平成 23 年 11 月 26 日に開かれた近畿雑草研究会総会において承認された，平成 22 年度の収支決算報告・会計監査報告ならびに平成 23 年度の予算案を，以下に転載します。

（１）平成 22 年度収支決算報告

（会計年度：平成 22 年 4 月 1 日
～平成 23 年 3 月 31 日）

収入の部

科目	金額（円）
前年度繰越金	376,801
会費	17,000
利子	141
合計	393,942

支出の部

科目	金額（円）
講演会会場費	10,280
講演会講師旅費	132,460
合計	142,740

差引残高 251,202 円。
残金は次年度に繰り越します。
上記の通り，相違ありません。

平成 23 年 11 月 24 日
平成 22 年度代表　伊藤一幸 ㊞

（２）平成 22 年度会計監査報告

平成 22 年度の近畿雑草研究会の会計に関し，会計帳簿，証拠書類（領収書，会費受付記録等）および預金通帳を検査照合し，不明確な部分については説明を求めるなどして必要な調査を行った結果，収支とも適正に執行され，決算書に適正に表示されていることを認めます。

平成 23 年 11 月 26 日
会計監査　森本正則　㊞

（３）平成 23 年度予算案

（会計年度：平成 23 年 4 月 1 日
～平成 24 年 3 月 31 日）

収入の部

科目	金額（円）
前年度繰越金	251,202
会費	31,000
助成金	0
合計	282,202

支出の部

科目	金額（円）
講演会費	70,000
事務費	5,000
通信費	5,000
印刷費	1,000
予備費	201,202
合計	282,202

以上。

発行　近畿雑草研究会

代表　須藤健一
（日本植物調節剤研究協会兵庫試験地）
庶務・会計幹事　三浦励一
（京都大学農学研究科雑草学研究室）
事務局　京都大学大学院農学研究科
雑草学分野　冨永研究室気付
近畿雑草研究会
〒606-8502
京都市左京区北白川追分町
電話：075-753-6066/6062
ファックス：075-753-6062
E-mail：miurar@kais.kyoto-u.ac.jp